

昭和町議会だより

第 44 号

44

平成19年10月25日 9月定例会



平成18年度決算	2
村の姿勢を問う 2名が一般質問.....	8
追跡シリーズ あの問題は今.....	12
聞きたい知りたいみんなの声 女性消防隊.....	13

一般会計

歳入総額 **38億8,414万円** (前年度比11.0%減)

歳出総額 **36億1,521万円** (前年度比11.1%減)

監査委員の決算審査総括的意見(要約)



代表監査委員

松井源之助氏

監査委員

金子松二郎氏

実質収支は各会計ともに黒字である。限られた財源の中、各種事業の選択を行い経費の節減に努められた結果であると受け止める。本村の財政構造は、自主

財源14億833万円で、自主財源比率36・3%と低い状況であり、財政の弾力性の判断指標である経常収支比率は97・6%(前年度94・8%)と、依然として硬直化が続いている。その大きな要因は、自主財源の低さと地方交付税の減少である。公債費は3億9,448万円(前年度4億9,251万円)、公債費比率10・7%(前年度13%)と、金額・比率ともに大きく減少した。

定例会

9月定例会

9月定例会は、9月6日(木)から14日(金)までの9日間の会期で開催されました。19年度補正予算を含む議案4件、承認1件が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。また、平成18年度昭和村一般会計及び特別会計決算について審議を行い、各会計とも提出された決算書のとおり認定しました。最終日の一般質問では2名が登壇し、村の姿勢を問いました。

昭和村の財政状況

財政指標	16年度	17年度	18年度
財政力指数 1.00に近いほど財源に余裕があるとされています。平成18年度の県内町村平均値は0.57、郡内の平均値は0.34となっています。	0.31	0.33	0.36
経常収支比率 財政構造の弾力性を判断するための指標で、町村にあつては70%程度が妥当。これを5%超えると弾力性を失いつつあると考えられます。	94.2	94.8	97.6
公債費比率 一般財源に占める公債費の割合を示します。この比率が10%を超えないことが望ましいとされています。	13.8	13.0	10.7
実質公債費比率 自治体の税収に地方交付税を加えた標準的な収入に対する公債費等の返済額の割合を示します。	—	18.1	19.1

平成18年度 決算を認定

平成18年度昭和村一般会計及び特別会計決算について審議を行い、歳入総額65億6,856万3千円、歳出総額61億5,828万2千円を認定しました。

平成18年度各会計決算額					
区 分		歳入決算額	歳出決算額	差 引	採決の結果
一般会計		38億8,414万8千円	36億1,521万2千円	2億6,893万6千円	賛成10・反対1
特別会計	国民健康保険事業	9億4,267万2千円	8億6,815万7千円	7,451万5千円	賛成10・反対1
	老人保健事業	7億9,447万4千円	7億9,170万1千円	277万3千円	賛成10・反対1
	簡易水道事業	1億3,013万1千円	1億 809万5千円	2,203万6千円	全員賛成
	農業集落排水事業	3億3,328万4千円	3億2,157万0千円	1,171万4千円	全員賛成
	介護保険	4億8,385万4千円	4億5,354万7千円	3,030万7千円	賛成10・反対1
合 計		65億6,856万3千円	61億5,828万2千円	4億1,028万1千円	

一般会計

歳入38億8,414万8千円で前年度比11・0%の減。歳出36億1,521万2千円で前年度比11・1%の減。歳入・歳出ともに減少していますが、これは農業集落排水事業、赤城西麓土地改良事業、学校・保育園建設等の大型投資が終了した結果であり、その投資の返済期間であるのが本村の現状といえます。

国民健康保険事業特別会計

保険税収入は前年度比1,719万円減収となりましたが、支出の保険給付費が3,129万円減少となり、収支のバランス、安定性が保持できました。

老人保健事業特別会計

歳入で前年度比5,437万円減少したのは、支払基金交付金5,543万円の減少によるものです。歳出は、前年度比1,531万円の減少で、医療給付費

2,875万円の減少によるものです。

簡易水道事業特別会計

事業に伴う借入金が平成15年度よりなくなっています。若干一般会計からの繰入金がありますが、公共サービスですので努力のうえ維持願います。

農業集落排水事業特別会計

農業集落排水の平均接続率が71・5%と、前年度より6・8%上昇しました。目標とする80%に向けて、一段と努力をお願いします。

介護保険特別会計

前年度に比べ、歳入で5・7%、歳出で4・9%増加しています。収支はバランスを保持し、要介護・要支援認定数も前年度より30人増加し345人となっています。

主な決算質疑

問 企業誘致推進協議会を設置したが、どのような活動・役割を果たしているのか。また、進出企業4社による村民の雇用状況は。

答 企業が求める雇用環境の整備・改善等を促進するとともに地域産業の振興を図るということで、ハローワーク及び昭和村による合同企業訪問（ヒアリングの実施）や、企業との雇用情勢に関する情報交換会等を実施しています。

問 関屋工業団地に4社が進出し、村内在住者が現在31人採用されています。公用・公共財産の目的外使用はないか。

答 「昭和の森」施設は、村名義の所有権保存登記がなされているか。

答 目的外使用はありません。土地については登記済みですが、建物について一部済んでいないので、今後登記していきます。

問 18年度以降の職員等の不祥事や処分事例があるか。

答 ありません。

問 平成18年5月よりポジティブリスト制度が始まり、農薬の残留基準が厳しくなりました。村ではどのような飛散防止（ドリフト）対策を講じてきたか。

答 広報紙によるPRや啓発活動、研修会、ドリフト低減ノズルによる散布状況等の講習会を実施しました。

問 「地方公共団体の財政の健全化に関する法

律」が制定されたが、①実質赤字比率、②連結実質赤字比率、③実質公債費比率、④将来負担比率の4つの指標数値を明らかにしていたきたい。

今後、健全化団体に指定される可能性はあるのか。

答 ①黒字のため計算式に当てはまらない、②④官庁からの指示待ち、③18年度19・1となっていない。

実質公債費比率は1～2年で18%以下になり、一般的な基準で起債ができるようになると思っています。

問 知事や市町村長の退職金が高すぎると社会問題となっている。1期4年間でなんと20か月分以上にもなる退職金は高すぎるのではないか。

答 本村だけでなく、県内の全町村が群馬県市町村総合事務組合に加入し、組合条例に基づいて支給されています。



ドリフト対策実演会

課題が残る案件

路線バス運行事業



村民の足の確保、特に高齢者・学童に必要なこの事業が、利用者の減少が続き厳しさを増しています。平成18年9月に運行の見直しを行い経費の削減を行っていましたが、利用人員の減少が止まらず、18年度の利用者は6万2,067人で、前年度より1万862人減少しています。この対策として、小中学校の遠距離通学費補助金との連携、委託業者の関越交通（株）との協議等、様々な方策の検討が望まれます。

学童保育事業

定員40人の昭和南学童クラブでは、希望者の増加が続いています。特に夏休みに入って利用者が増え、7月には最高74人、通常でも50人以上との報告を受けました。今後の利用者を予測し、定員オーバーが続くようならば何らかの対策を講ずることが望まれます。



条例制定

名誉村民条例を制定

昭和村発展のため優れた功績があった方、広く社会の進展、学術文化の振興に貢献された方に昭和村名誉村民の称号を贈り、村民の敬愛の対象として顕彰するもの。

(全員賛成)

専決処分

関東・全国大会派遣費を増額

一般会計補正予算(第2号)

140万8千円追加

総額

32億6,837万円

昭和中学校柔道部の関東中学校体育大会及び全国中学校体育大会出場に伴う選手等派遣補助金

(全員賛成)

補正予算

頑張る地方応援プログラムで

地方交付税予算額が大幅増

※頑張る地方応援プログラムとは…地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方公共団体に対し、国が地方交付税などの支援措置を行うもの。

一般会計(第3号)

3,226万9千円追加

総額

33億63万9千円

補正の主な内容

(歳入)

・地方交付税

2億3,020万円

・財政調整基金繰入金

▲2億7,068万円

(歳出)

・路線バス運行費補助金

672万円

・大河原中道地区小規模土地改良事業費

440万円

・村道古宮追分線道路舗装

440万円

・工事費

400万円

・降電による農業災害対策事業費補助金

604万円

全員賛成



降電により被害を受けたレタス

臨時会

第5回臨時会が10月23日に招集されました。議案2件が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。

国有林「結婚の森」を取得

糸之瀬苗畑と隣接した国有林、通称「結婚の森」などの用地6.68㌔と、結婚の森へのアクセス道路用地として1.01㌔を取得するための議決です。

結婚の森では、毎年新婚カップルが大山桜の記念植樹を行っており、今後も村事業として継続します。糸之瀬苗畑とともに有効的な活用が期待されます。

「千年の森」の軽石を売却

「千年の森」の軽石を採取し売却するための議決で、採取面積は約8.5㌔、軽石売却価格は1,500万円です。

軽石採取後は、新たにコナラを植栽し、森林として再生される予定です。

国民健康保険事業特別会計(第1号)
介護保険特別会計(第1号)

2,947万7千円追加
総額

10億144万3千円

老人保健拠出金の増額

全員賛成

1,961万7千円追加
総額

4億8,802万2千円

国及び社会保険診療報酬支払基金への償還等の増額

全員賛成

総務民生常任委員会



大河原学童クラブ

9月11日、役場会議室において行われた総務民生常任委員会では、付託された請願について審査を行いました。

はじめに、本年6月定例会において、調査期間が必要であることから継続審査となつて

について審議を行った結果、委員全員、問題はないと判断しました。

次に、「憲法9条を守る決議」を求める請願では、戦争のない平和な国を築くことが国民の願いであること、また、日本も経済大国となり国際貢献等の問題もあり、今後調査が必要であるという意見から、全会一致継続審査としました。

次に、平成18年度各会計決算については、議会全員協議会で当局から説明を受けていることから、委員会の所管事務について質疑を行いました。その概要は、

昭和村総合福祉センター「昭和の湯」の入館状況や管理運営状況、緊急地震速報に対する村の対応、閑屋工業団地進出企業

の固定資産税の課税状況、敬老祝い金について見直しを行っている市町村が多いことから今後の在り方などについて、活発な質疑や意見が述べられました。

また、付託案件の審査終了後、特別養護老人ホーム「菜の花館」、平成19年度事業で改修工事を行った第二保育園プール、昭和南・昭和東・大河原学童クラブの現地調査を行いました。



特別養護老人ホーム「菜の花館」を視察

みなさんからの請願・陳情

自 平成19年5月28日 至 平成19年8月27日

受理番号	受理年月日	件名	請願・陳情者	紹介議員名	付託委員会	審議結果
14	H19. 5.28	請願書 芝生公園整備事業に関わる調査について	角田 茂	林 幸司	総務民生	採択
19	H19. 8.23	「憲法9条を守る決議」を求める請願書	憲法改悪反対利根沼田共同センター 加藤 貴	林 幸司	総務民生	継続審査
20	H19. 8.24	請願書 村道下阿曾蛇久保線道路改良工事及び県道下久屋渋川線道路排水工事のお願いについて	吹張区長 渡邊健一郎	金子松二郎 高橋幸一郎	文教産建	採択
21	H19. 8.27	陳情書 歌碑の建立に伴うお願い	昭和村黒土短歌会 会長 諸田義幸 外2名		文教産建	継続審査

文教産建常任委員会

9月12日、役場会議室において行われた文教産建常任委員会では、付託された請願・陳情について現地調査を行い、その後審査を行いました。

はじめに、村道下阿曾蛇久保線道路改良工事及び県道下久屋渋川線道路排水工事を求める請願では、現在地域住民にとって重要な生



道路改良工事が望まれる村道下阿曾蛇久保線（吹張地区）

活道路として利用されておりますが、道路幅員が狭く車の相互通行が難しいことや、隣接する県道の排水対策が未整備なことから、民有地に雨水が流入するなどの支障をきたしています。このような現状から、道路幅員の確保と雨水処理のための、側溝の設置は必要であることから、地

権者と協議の上、必要最小限度の予算執行で実施していただくようお願いし、全会一致採択しました。また、県道の排水処理については、沼田土木事務所と協議するようお願いしました。

次に、「歌碑の建立に伴うお願い」では、歌碑を建立するために地域活性化センターの土地の一部提供を求めるものですが、公共用地への建立には公平性を考慮すべきであり、今回採択することで同様の要望が懸念されること、また、歌碑を建立した場合の維持管理の問題等もあり、具体的な歌碑のデザインを提出していただくなど調査が必要なことから、全会一致継続審査としました。

次に、平成18年度各会計決算については、議会全員協議会で当局から説明を受けていることから、委員会の所管事項について質疑を行いました。大規模養蚕農



AED講習会の様子

家の保存や文化財指定への取組、生活環境保全林の管理体制、補助事業で行った堆肥生産組合で製造された堆肥の利用状況、各学校へのAED設置要望など、幅広く質疑や意見が述べられました。

また、審査終了後、沼田警察署の視察を行い、小貫署長に署内各課を案内していただきました。その後、昭和南学童クラブの現地調査を行いました。

村づくり対策

特別委員会

横浜市会へ要望書を提出します

議会では、今年2月に自由民主党横浜市議団を表敬訪問し、横浜市との交流事業について意見交換を行い、交流の輪がさらに広がるよう要望しましたところ、具体的な提案をしていただければ、できるだけの努力と協力をしていただけるとのことでした。

村づくり対策特別委員会では、これまでに、村づくり協力委員との意見交換会や、世田谷区との交流が盛んな川場村の行政視察を行い要望事項の検討を重ねてまいりました。10月23日開



昭和村の少年野球チームが横浜スタジアムでプレー

一般質問



高橋幸一郎 議員

昭和村後継者対策協議会の設置を

問

平成19年8月29日
現在、昭和村の各世代未婚者数は20歳代が77%の687人、30歳代が35%の281人、40歳代は18%で180人、50歳代でも12%の176人、また、30歳代男子で40%、40歳代男子で21%になっており深刻な問題となっている。この問題解決に対して、当局として真剣に具体的な対策を講じなければならず、特に農業、商工業を問わず後継者対策が重要な役割をもつと考え、「昭和村後継者対策協議会」の設置を強く要

答 村 長

望する。

企業誘致の推進、育児環境改善による若者の就労支援など、後継者に残ってもらえるように諸施策を進めてきていますが、結婚については、その人その人の人生に対しての考え方や事情があります。

後継者対策協議会設置について調査・検討をして、後継者が一人でも多く残れる村にしていきたいと考えています。

災害時備蓄と防災力向上を

問

地震などの災害発生時に住民が利用できる食料、水、医薬品の3種類すべてを備蓄している自治体は、県内38市町村のうち9市町村にとどまっており、その中で上野、川場、昭和の3村はいずれも備蓄していないとのこと。

答 村 長

県をはじめ、防災協定を締結している横浜市や取手市と連携を図りながら、村としても民間企業と協力を結ぶなど「流通備蓄」を検討するとともに、「自主備蓄」についても前向きに検討していきます。

何をどう自主備蓄しなければならぬか、住民、県、企業等と早急に協議しなければならぬ。また、行政区単位の自主防災力の向上を図る必要があるが、村長はどう考え対処するのか。

また、住民や企業に対しても、食料や飲料水、医薬品などの備蓄の呼びかけを行うとともに、防災情報を提供し、防災意識の向上を図っていききたいと考えています。

「赤城高原認定商品」制度の確立を

問

「赤城高原認定商品」制度を確立することにより、昭和村の安心、安全な農産物の提供を行うことが、本村の魅力を発信する大きな武器となります。村長として本気で取り組み意気込みと決意の程を聞かせてほしい。

答 村 長

全国的に、地域ブランドの商標登録について、その気運が高まっていると聞いています。本村農産物や加工品が地域ブランドとして全国的に認知されるよう、今後、地域団体商標登録も

視野に入れながら、総合的に十分検討していきたいと考えています。



全国商工会連合会会長賞を受賞した「さくら工房のとまとジュース」



林 幸司 議員

姿勢問題

多重債務者救済へ相談窓口の設置を

問

「貸金業規制法」改正で、住民との接触が多く、早期発見、問題解決が期待できる市町村には、援助体制の充実が求められました。

答 村長

いまだで多重債務等の相談はなく、人数も把握してません。当面、県など他の自治体への適切な紹介を行い、相談窓口は検討していきたいと思っています。

償却資産課税と免税軽油について

問

償却資産分の納税額の推移や法的根拠は、滞納者から畑も差し押さえ競売にかけるなど厳しく取り立てるばかりでなく、農業用免税軽油について援助を求めます。

答 村長

今年度758名に申告を

促し719名が申告、一般252名、農家467名でした。150万円以上の課税者は一般106名、農家153名が該当。農家の償却資産分納税額は、17年度

14戸158万3千円、18年度56戸376万8千円、今年度153戸で920万5千円の見込みです。国税資料の閲覧やコピーが可能となり整合性を点検しています。農業用免税軽油使用は県内11件、昭和村1件。道路走行トラクターの免税ができるよう努力していきます。

「消えた年金問題」への対応は

問

村独自の支援策実施を求めます。

答 村長

納付記録に対する回答や写しの交付、社会保険事務

次世代育成支援計画の推進を

問

第3子以降の保育料無料化、出産祝金制度創設、15歳までの医療費無料化を実施していただきたい。

答 村長

近年、3歳未満児の入所希望が多くなり、延長保育、

住宅の耐震化促進など防災対策は

問

地震による死者の8割は住宅の倒壊、多数が高齢者です。貴重な養蚕民家を後世に引き継ぐためにも耐震補助事業の実施を求めます。

答 村長

災害時に自動的に告知が始まる緊急告知FMラジオを研究していきたい。耐震改修促進計画の策定、災害時要援護者の把握、避難所運営マニュアル整備、耐震診断・耐震改修補助制度について検討していきたいと考えています。

シカ除けネット無念 シカ・イノシシによる 被害多発!!

議会



査

報告

シカやイノシシによる農作物の被害が多発していることから、9月4日、松ノ木平地区及び桜地区において、被害調査を行いました。松ノ木平地区のレタス畑では、マルチに多数の穴があいており、シカの数が多さがうかがえました。結球して

いるレタスはもちろんですが、育成途中のレタスも食害に遭っているようです。飼料用トウモロコシ畑に入っていくと、シカが2頭逃げていくのが見えました。トウモロコシは倒され、実が食べられていました。

昭和の森ゴルフ場付近のトウモロコシ畑は、特に被害が大きく、まるで収穫した後かと思うほどきれいに倒され、食害にも遭っ

ていました。畑では、シカとイノシシの糞が確認されました。

上永井の村有林には、クズの根が食べたくてイノシシが掘ったと思われる大きな穴がたくさんありました。今後、シカだけでなくイノシシの被害も大きくなることが心配されます。村当局・農業委員会・猟友会・地域の皆さんと協力して対策を立てることにしました。



シカの食害に遭ったレタス畑



収穫後かと思うほど荒らされた飼料用トウモロコシ畑

議会だより優秀賞の町で 広報紙作りのコツを学ぶ

岩手県金ケ崎町議会



議会広報編集特別委員会では、紙面の更なる充実を目的に7月25・26日に視察研修を行いました。

金ケ崎町は、岩手県の南、内陸部に位置し、面積179km²、人口1万6,396人の町です。基幹産業の農業は、平地では米を中

心に、野菜・花きの栽培、山岳地帯では、酪農や大型畜産が行われています。工業は県内最大の工業団地を有し、工業出荷額は県内市町村でもトップクラスで、農業と工業のバランスのとれた町づくりを行っています。

本題の研修ですが、一番驚かされたのは、昭和61年6月に議会広報編集委員会を設置し「議会広報金ケ崎」を発行したときから今日

に至るまで、一度も議会事務局が携わず、すべて編集委員だけで広報を作っているという事です。その甲斐があり、平成17年・18年と連続で町村議会広報全国コンクールにおいて優秀賞を受賞しています。さらに、発行日が定例会翌月の第一木曜日という驚くべき早さで、定例会の様子をいち早く住民に伝えようという強い使命感を感じました。

また、議会だより作成に当たつてのコツも教えていただきました。表紙はテーマを決め、シリーズものにする。と次号の表紙を楽しみにしているとのこと。記事を読んでもらうためには、写真やイラストなどを入れて視覚に訴え、なお且つ、文章をわかりやすく表記すること。また、一般質問等で答弁されたことが実際に実行されているか追跡調査する

また、議会だより作成に当たつてのコツも教えていただきました。表紙はテーマを決め、シリーズものにする。と次号の表紙を楽しみにしているとのこと。記事を読んでもらうためには、写真やイラストなどを入れて視覚に訴え、なお且つ、文章をわかりやすく表記すること。また、一般質問等で答弁されたことが実際に実行されているか追跡調査する

また、議会だより作成に当たつてのコツも教えていただきました。表紙はテーマを決め、シリーズものにする。と次号の表紙を楽しみにしているとのこと。記事を読んでもらうためには、写真やイラストなどを入れて視覚に訴え、なお且つ、文章をわかりやすく表記すること。また、一般質問等で答弁されたことが実際に実行されているか追跡調査する



記事も重要であり、取り組んでみたらどうかと提言をいただきました。 「議会だより」製作に向け、新たな目標を持つことができ、充実した研修会となりました。

山村と都市の交流

川場村に学ぶ

村づくり対策特別委員会では、9月21日・22日に世田谷区との交流が盛んな川場村を訪問し、農山村と都市の交流事業について学びました。

世田谷区出身の谷田部副村長などから、区

民健康村誕生までの経過説明をしていただくとともに、健康村の宿泊施設「ふじやまビレッジ」なかの「ビレッジ」の視察をさせていただきました。

世田谷区民健康村構

想は、昭和54年に世田谷区が「区民の第二のふるさとづくり」を目指してスタート。適地選定に当たり52市町村応募の中から川場村が選ばれたのは、交通の利便さと、ふるさと感のある景観が高く評価されたとのこと。

その後、56年に「区民健康村づくり」を進める世田谷区と、「農業と観光による村おこし」

を提唱する川場村との縁組協定が結ばれ、自然環境・農林業・教育・文化・スポーツ等を通じた事業や普段着での交流が続いています。 これまでに世田谷区人口約84万人の1・6倍の人が村を訪れ、その7割がリピーター。小学5年生を対象とした交流も26年間続いています。

また、健康村の宿泊

施設は、同区民と村民が、1泊2食付き4,300円で利用できる気です。 健康村の活動を推進する組織として誕生した(株)世田谷川場ふるさと公社の年間事業費は約5億円、うち3億5千万円は世田谷区からの補助金で賄われており、村内に大きな経済効果をもたらしています。

また、健康村の宿泊



す。 元気がある村という印象を強く受けました。

追跡
シリーズ

1

あの問題は 今



議員が行う提言などは、村政にどう反映されているのか。皆さんからの請願や陳情は議会採択後どのように処理されているのか。その後の経過を追跡します。

上沼須交差点の改良を

(平成18年9月定例会一般質問)

問 上沼須町の交差点が交差信号であるため、降雪時や時間帯によっては長い渋滞となる。交差点の改良を県と沼田市に働きかけていただきたい。

答

沼田市では、第4次総合計画の中に生活道路ネットワーク整備事業を示しており、市道国立病院市坂線についても道路改良の整備が必要であると位置付けている。
村民の総意として、整備計画実現に向け沼田市、県及び関係機関にお願いしていく。

その後

特に整備計画の動きは聞いていない。今後も沼田市、県及び関係機関にお願いしていく。



新二恵橋の早期建設を

(平成18年9月定例会一般質問)

問 老朽化が進み、交通事故も多く、大型車同士の相互通行もできず交通に支障をきたしている。交通安全の確保と本村地域経済発展のため、「新二恵橋」の早期建設を望む。

答

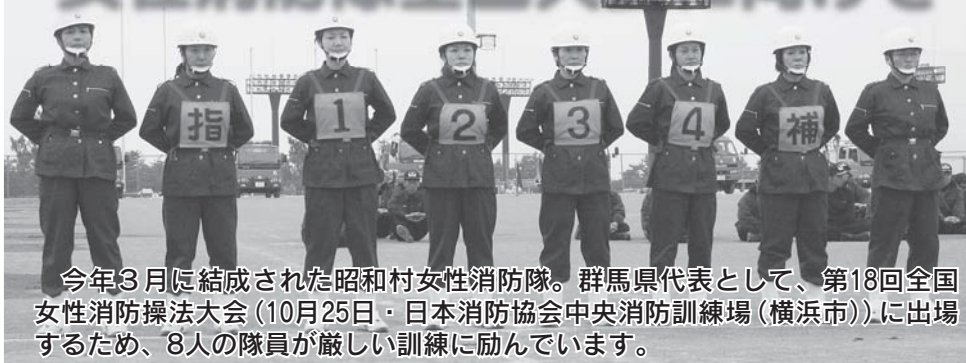
国・県に要望しているが進展がみられない。橋梁塗装塗り替えのお願いをしたところ、今年度施工の運びとなった。今後も、県及び関係機関に強く要望していく。

その後

利根地方総合開発協会を通じて県に陳情しているが、県では継続審査になっている。10月3日に村長・議長で県知事・当局に陳情書を提出しました。



女性消防隊全国大会に向けて



今年3月に結成された昭和村女性消防隊。群馬県代表として、第18回全国女性消防操法大会(10月25日・日本消防協会中央消防訓練場(横浜市))に出場するため、8人の隊員が厳しい訓練に励んでいます。

聞きたい、知りたい

みんなの声



昭和村女性消防隊隊長
沢浦 典子さん(鎌沢)

私たち女性消防隊は、今年2月に初めて顔合わせをした有志8人で結成された、23歳から49歳までの個性あふれる仲間です。

練習は3月より週2回、9月から週3回、中央消防署の優秀な指導員のもと訓練を受けています。何もかも初めてのことがばかりで戸惑いでしたが、みんな1つの目標に向かって一生懸命でした。

8月には番員が決まって、いっそう練習に熱が入るようになり、9月に入って、どうにかポンプ操法の形ができてきたように思います。

全くの初心者だった私たちがここまで来られたのは、中央署の皆さんの見事な調教と優しさのおかげです。また、私たちが練習に集中できたのも、各分団の皆さんの力強い応援のおかげです。こうして、皆さんにお世話になり、本当にありがたいという気持ちでいっぱいです。

そんな大きな力を胸に、全国の舞台で昭和村の名前を広めてきます。

教わったことを全て出し切り、自分たちが納得できる競技をしたい。そして、それが良い結果につながれば最高だと思っています。

最後まで精一杯がんばりますので、応援よろしくお願いします。



昭和村女性消防隊指揮者
根岸まさみさん(中野下)

消防ポンプ操法というと、私たちは村民運動会などで各分団の男性のみなさんの雄々しく格好いいポンプ操法を見てきました。その操法を仕上げるために、各分団の郡や県、全国大会へ向けての過酷な練習の様は聞いていましたが、まさか、自分が昭和村女性消防隊として全国大会出場という大きな仕事を受け、訓練することになるとは思いもしませんでした。

いろいろな事情が重なり、一員として命を受けることになりましたが、消防の何たるかを知らないまま3月から基礎練習が始まりました。最初は7人だった隊員も8人になり、基礎練習から各ポジションへの練習に替わり、番員も確定してから

は細かい動作の一つ一つも覚えるのが必死です。

そんな毎回の練習でも、一緒に頑張っている仲間がいるから励まされ頑張れる自分がいます。中央署の皆さんの熱心な指導と心強い励ましをいただき、また、村各分団の皆さんには素晴らしいバックアップをいただき、心から感謝いたします。家族の支えがなければ大会へ出場できる私はいませんでした。たくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

何よりも素晴らしい仲間と巡り会え、大会の終わりに仲間と笑顔で喜べるよう頑張りたいと思います。



地域でがんばる



シリーズ1

ボランティア活動

平成元年3月、主人の仕事の関係で昭和村に住むことになりました。

平成12年春、学童保育開設を目指す阿部みつ先生たちとボランティア活動を始めました。初めは困難にみえた活動でしたが、国や県の少子化対策事業とも合致し、平成14年に東小、平成15年に南小と順調に学童保育を開設することができました。主要メンバーはほとんど大河原小地区の人

でしたが、最後の大河原小への開設はかなり難航しました。

しかし、地域の人たちの熱意で平成18年に開設できました。

そんなご縁で、平成17年秋より大河原小で週1回、放課後子供教室の安全管理員をしています。

現在子供の数が減っています。若い世代が安心して子育てができるよう応援したいと思っています。



柄澤 春江さん
(大堀)

議会の動き

7月

30日 ● 広域組合議会臨時会

8月

- 7日 ● 総合運動公園下草刈り
- 10日 ● 利根沼田学校組合議員協議会
利根沼田学校組合議会定例会
- 11日 ● 取手市と防災協定締結
- 12日 ● ボスニア交流会
- 17日 ● 議会全員協議会
- 20日～
22日 ● 利根郡町村議会議長会県外
視察研修
- 27日 ● 定例議長会
利根総合開発協会理事会
- 28日 ● 議会運営委員会
- 29日 ● 藤森工業竣工祝賀会

9月

- 4日 ● 議会広報編集特別委員会
- 6日 ● 第4回昭和村議会定例会本会議
- 6・7日 ● 議会全員協議会
- 8日 ● 東小学校・南小学校・大河原
小学校運動会
- 10日 ● 議会全員協議会
- 11日 ● 総務民生常任委員会
- 12日 ● 文教産建常任委員会
- 14日 ● 本会議(最終日)
- 15日 ● 昭和中学校運動会
- 19日 ● 議会広報編集特別委員会
- 21日～
22日 ● 川場村行政視察
- 29日 ● 第一保育園・第二保育園・
子育保育園運動会
- 30日 ● 第40回村民運動会

10月

- 3日 ● 利根地方総合開発協会県へ陳情
- 7日 ● 第10回昭和の秋まつり
- 9日 ● 第28回村民チャリティーゴルフ大会
- 10日 ● 議会広報編集特別委員会
- 14日 ● 昭和村消防団秋季点検
- 15日 ● 定例議長会
- 16日 ● 西会津町議会視察来村
- 21日 ● 第13回チャリティー舞踊発表会
- 21日 ● 昭和柔道部関東・全国大会
出場報告会
- 22日 ● 広域組合定例議員協議会
- 23日 ● 議会全員協議会
第5回昭和村議会臨時会
村づくり対策特別委員会
- 23日～
24日 ● 正副議長・正副委員長・事務
局長研修会
- 25日 ● 全国女性消防操法大会

編集室から

今年の夏は、例年のない猛暑に見舞われ、皆さん大変なことだったと思います。その暑さも一段落したかと思う間もなく、台風9号が日本に上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。本村では大きな被害もなかったのは不幸中の幸いです。被害に遭われた各地の皆様には、遅ればせながら心よりお見舞い申し上げます。

広報編集委員会では、村民の皆様様に読みやすく、親しみやすい紙面作りを目指し7月25日に岩手県金ケ崎町へ研修に行つてまいりました。当議会は、全国コンクールで優秀賞を2年連続で受賞されました。昨年は年間12回の視察があつたのですが、皆さん嫌な顔ひとつせず温かく迎えていただき、充実した研修となりました。今後も研鑽を重ね、親しまれる紙面作りに頑張っていきたいと思っています。

実りの秋を迎えますが、健康管理に気をつけてお過ごしください。ようお祈り申し上げます。

真下明雄 記